

ようじえんだより 2018年度7月号

十日町幼稚園 〒948-0083 十日町市本町西1丁目253番地
Tel:025-752-2068 Fax:025-752-2189

7月主題『交わる』

主題聖句：主よ、…わたしたちにも祈りを教えてください。

ルカによる福音書11章1節

☆ 0～2歳児：保育者の祈る姿にふれ、イエス様を身近に感じる。水や砂、土にふれて遊ぶ。保育者と一緒に夏の遊びを楽しむ。

☆ 3～5歳児：生活の中で讚美したり、祈ったりする気持ちが生まれ、その気持ちを表す。好きな遊びを深めながら、生き物や、友だちとの交わりが楽しくなる。自分の思いや意見を伝えようとする。

21世紀の課題とその克服のために

先月19日に十日町市私立保育園・認定こども園連絡協議会の研修会が行われました。講師に汐見稔幸(しおみとしゆき)先生をお招きして改訂された「保育所保育指針」の理念を学んだのですが、このたびの改訂の根底には現代社会を覆う諸課題克服のための教育の在り方がありました。

現代社会は不確定で激しい変化が世界的な規模で起こっています。IT化の波はもちろん、その先にAI技術が進み、今ある仕事の多くがなくなるとも言われています。環境問題や貧困の拡大、価値観の多様化、人口急増国と急減国のバランスの問題などが起こることは確実視されていますが、それらの問題が深刻化する中で21世紀は「人と関わるのが最大のストレスとなり、それが地球規模の危機となる」というのです。

そんな課題山積の世の中を生きる子どもたちには、①こうすればいい！とみんなでワイワイ議論して、②適切な答えを、③あきらめずに粘り強く導き出し、④そして決めたこと、わかっ

たことを実践する力(非認知能力などと言われます)を身につけてもらおう、そのための教育が乳幼児期から必要だ、ということになったのです。

機械ではできないことをできる人に

上記のような社会になると、正確にインプット・アウトプットができることや言われたことを言われたとおりにするだけでは不十分ということになります(それも素晴らしい能力ではありませんが)。それらはすべて機械がしてくれます。むしろ機械を扱う能力や、正解が一つではないことに向き合う能力や、人と人をつなげて持続可能な社会を作り出す力が求められていくことでしょう。

汐見先生は講演会の中で、「つまり、これからは『身体を使うこと、大好き！』『自分で考えること、大好き！』『人とかかわること、大好き！』という子どもを0歳から育てていくのです」と言われました。十日町幼稚園の子どもたちにぴったりの時代になるのです。右肩下がりの時代にあって、希望を得た講演会でした。

園長：久保田愛策

年間主題『イエスさまとともに生きる～愛の交わりの中で～』

主題聖句：愛する者たち、神がこのようにわたしたちを愛されたのですから、わたしたちも互いに愛し合うべきです。

新約聖書 ヨハネの手紙I 4章11節